

祝卒業

題字/2年4組 山川康志



天高育友会報
平成25年3月1日発行
発行 県立天草高等学校育友会
編集 天高育友会文化広報委員会
印刷 ワタナベデザイン

指導に対し感謝申し上げます

卒業生の皆さん、三年間がとつても短く思っているのではないですか。

三年前、皆さんは大人になる直前の大切な時期をこの伝統校である天草高校に入學し、自分の夢の実現のために、勉強に部活動に切磋琢磨し頑張ってきたことを思い出していると思います。又、嬉しかったこと、悔しかったこと、思い出されるのではないですか。

この三年間は、皆さんの人生においてとても大切な時間だったということです。

私事になりますが、私も高校を卒業する時、同じ思い出したことを思い出しています。これから皆さんは、それぞれ違った道を歩んでいくことになりませんが、どんな困難に対しても、自分の信じる道を一歩一歩前に進んでほしいと思います。



育友会会長
山浦 孝弘

います。又、いろんなことに挑戦する勇氣を持ち続け頑張ってください。

卒業生の皆さんの前途にすばらしい未来が開かれることを祈念しています。
ご卒業誠におめでとうございました。
最後になりますが、先生方、保護者の皆様方の育友会へのご理解、ご協力ありがとうございました。

感動に満ちた人生を

三年生の皆さん卒業おめでとうございます。保護者の皆さんの喜びも一入のことかと思えます。

皆さんは、本校で学んだ三年間において、人としての生き方の基礎となるものを学び得たと思います。常に、本校の三綱領「正大 剛健 寛厚」を生きる指針として持ち、どんな困難にも立ち向かつて欲しいと思います。

現在の日本が抱える問題には、企業の弱体化による雇用の喪失、貿易収支の悪化などに見られる経済不況、近隣諸国との様々な摩擦、少子高齢化、自然災害に対する対応、省エネルギー対策など数多くの課題を抱えています。その一つひとつを皆さんは、それぞれの立場で解決していかなければなりません。

人生はよく山登りに譬えられます。卒業を迎える皆さんは、山登りでいえば、傾斜が少し急になり始める三合目あたりまで登ってきた、といったところでしょうか。皆

さんは、これからさらに頂上を目指して、人生という山を自らの足で登っていかなくてはなりません。
しかし、頂上を目指すにあたっては、厳しい幾つもの難所つまり日本が抱える諸問題に遭遇すると思えます。それを創意工夫によって乗り越え解決して行かなければなりません。時には登山道の先ばかりを見つめるだけでなく、たまには立ち止まり、周囲の景色を見直し、「感動」を見つけて欲しいと思います。それは、九州百名山に選ばれた天草の最高峰である倉岳山に咲き誇る、ジシバリ、ノアザミ、ニガナ、タツナミソウといった花々に癒されたり、御所浦島から昇る朝日の幻想的景色、眼下には不知火海に点在する島々など絵画のような景色などに心を打たれたりすることと似ています。

雄大な天草の自然もただその前を通りすぎるだけでは、その情趣を感じることはできません。自ら感じ取るうとする精神がなければ、そ



校長
山村 清一

の本質に迫り、「感動」することはできません。その精神とは、高い志、好奇心、向上心から生まれる「意欲」ではないかと思えます。

皆さんには是非、「意欲」的に生き、時に立ち止まることで、一つでも多くの「感動」を見つけて欲しいと思います。その過程で、皆さんは多くの人と出会い、様々なものに触れることで、新たなものを創造する力を得ることでしょう。結果としてその力は、これから出会う様々な問題を解決する手助けとなり、皆さんが頂上まで到達するための大きな推進力となってくれるはずですよ。

保護者、同窓生、天草地域の人々、教職員との絆を大切に、一歩一歩、地道に努力を続けてください。皆さんが、夢を描き、自信と誇りと意欲を持つことで、キラキラと輝く、より豊かで感動に満ちた人生を手に入れるよう、心から願っています。

「渡を越す」といふこと



3年学年主任
木田 敦巳

宮本武蔵。江戸時代初期の剣豪で、日本史上の数ある英雄豪傑の中で抜群の知名度を誇る一人である。著書「五輪書」火之巻に渡を越すということが書かれている。渡を越すというのは、どのようなことか。たとえば海を渡る時に、瀬戸(幅の狭い海峡。潮流の関係で航行の難所となる)という所がある。また、四十里、五十里もある長い海を越える所を『渡(難所)』というのである。

世間を渡る時も、一生のうちには「渡」を越す所が多いものだ。船路ならば、その場所を知り、船の性能を知り、その日の吉凶を良く知るべき。随伴する船は小さくなくても、その時の(船の)性能により、あるいは横風に頼り、あるいは追い風を受け、もし風向きが変わっても二里、三里は櫂権を使って港に着くつもりで船に乗り「渡」を越すのである。その心を持って、世間を渡る時にも、全力で「渡」を越そうとしなければならぬ。(「五輪書」現代語訳の抜粋)

進路決定に向けての努力は、「渡」を越す一つであったと思う。これからの人生において、右記同様皆さんの瀬戸があり、「渡」があります。失敗を恐れるかもしれないが、失敗しないように、できるだけ準備をして瀬戸を越えなければいけない。うまくいかないこともあるだろうけど、自分の持っている力を発揮すれば、必ず希望は達成できるはず。勇氣と努力を持って自分の道を見つけて進んでください。